



写真等無断転載禁止

2026. 4. 6 発行 ニュースレター第344号

〒262-0019 千葉県花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL: 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

キョンとその分布拡大

千葉県の南半分にキョンという小形のシカが棲んでいます。その生息域が、房総半島を北に向かって拡大しつづけています。利根川を越えて、茨城県に分布域が拡大することが心配されています。

私は、『ちば環境情報センターニュースレター』第213号(2015年4月6日発行)にキョンの記事を書いたのですが、その内容が不正確でした。もう一度、正確な情報をお知らせします。

キョンは特定外来生物

キョンはもともと日本にいた動物ではありません。人間が海外からもちこんだ外来生物です。原産地は中国南部と台湾です。現在、千葉県と伊豆大島で野生繁殖しています。どちらも観光施設から逃げ出した個体から増えました。特定外来生物に指定されていて、根絶を目標に駆除が行われています。

JR 外房線の下りの終点は安房鴨川駅ですが、その3つ手前に行川アイランドという駅があります。この駅までが勝浦市で、次の安房天津駅から鴨川市になります。行川アイランドは、観光施設として1964年(昭和39年)に開園しましたが、赤字が続いて2001年(平成13年)に閉園しました。この施設のためにつくられた駅だけが今も残っています。

行川アイランドでは、キョンを放し飼いにしていました。その一部が逃げ出し、1980年代には、周辺で野生化したキョンが目撃されるようになっていました。

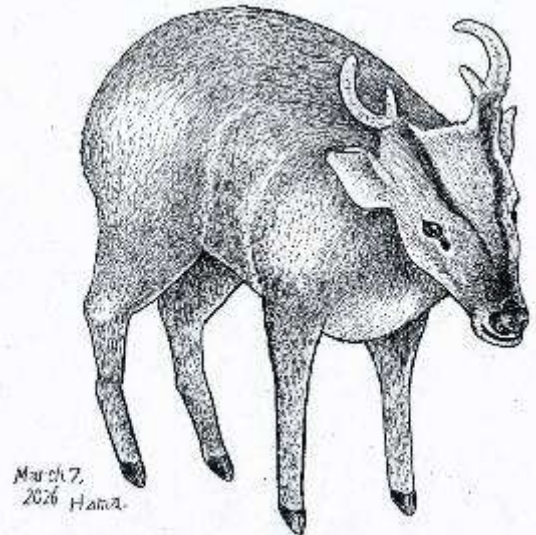
キョンの特徴とフィールドサイン

キョンは、目の下に外分泌腺があって、そこから臭い物質を分泌します。そのため、目の裂け目が数字の8の形になっています。オスは、角(つの)をもち、顔にV字形の黒い線があります。メスには角がなく、顔の真ん中は黒いのですが、V字形の線にはなっていません。だから、外見で雌雄を簡単に見分けることができます。

シカは偶蹄類です。偶蹄類には指が4本あります。シカのなかまは、そのうちの真ん中の大きな蹄(ひづめ)がある2本の指だけを地面につきます。

香取市 濱中 修

両脇の2本の小さな指は地面につきません。だから、ニホンジカもキョンも、2つの蹄の跡を地面に残します。でも、キョンの足跡はニホンジカよりずっと小さい。イノシシも偶蹄類ですが、真ん中の2本の指の他、両脇の2本の小さな指も地面につきません。イノシシの足跡は、大きな蹄の跡が2つ、その後ろに小さな蹄の跡が2つ、合計4つの蹄の跡でできています。



キョンは、木の葉が主食です。アオキなど、林床に生える低木の葉を食べます。秋には地面に落ちたドングリも食べます。草も食べますが、その割合は少ない。キョンは、ウシやウマのような「草食動物」ではありません。

動物が木の葉を食べた痕(あと)が残されていたら、糞を探しましょう。キョンと同じように、ニホンジカも木の葉が主食です。糞が落ちていれば、どっちが食べたかわかります。吉永小百合さんの「奈良の春日野」の歌を知っていますね。ニホンジカの糞は、「黒豆」にそっくりです。木の葉を食べた後の「黒豆」は、深緑色です。キョンも同じような形の糞をしますが、その大きさはニホンジカの糞よりも小さい。

キョンの分布の拡大とその理由

キョンには、繁殖期がなく、一年を通して妊娠出産が起こります。キョンのメスは、生後1年未満で

妊娠可能になります。このように書くと、キョンは短期間で爆発的に増える動物であると感じられるかもしれませんが。

キョンのメスは、1回の妊娠で子どもを1頭だけしか身ごもりません。妊娠期間は約210日前後です。食べ物が十分にあって、良好な栄養状態を維持できなければ、野生動物は連続して妊娠することができません。キョンは、急激に増えたわけではありません。対策が後手後手になったために、増えてしまいました。

千葉県でキョンの駆除が本格的に始まったのは、2000年（平成12年）です。外来生物法が施行され、キョンが特定外来生物に指定されたのは、2005年（平成17年）です。キョンの根絶が目標になったのは、この年です。南房総のキョンの生息数は、そのころには1万頭を超えていたと推定されています。行川アイランドから逃げ出したキョンは、隣接する清澄山やそのまわりの山々の自然林などの中で、すでに数を増やしていました。そこにはニホ

ンジカも棲んでいて、ニホンジカとキョンが共存していました。

キョンの生息域は、その後、北に拡大していきま。同時に、生息密度が高い地域も北に移っていきました。駆除を始めると、捕獲のノウハウが蓄積されます。駆除が早く始まった地域ほど、駆除効率がよくなります。新たな生息地での駆除は、効率よく行われるようになるまでに、時間がかかります。それに、新たな生息地には葉を食べられる木がたくさん生育していますから、繁殖率も高くなります。そのため、一時的にキョンの生息密度が高くなります。

キョンは森林の動物ですので、その生息域は千葉県の内陸部で拡大を続け、現在では千葉市緑区付近に到達しています。

※千葉県は「第3次千葉県キョン防除実施計画（案）」をインターネットで公開しています。詳しく知りたいかたは、そちらをご覧ください。

青少年を対象とする海岸の環境教育のためのワークショップの提案

東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 2年 鈴木郁也, 菊池日向, 勝山晴菜

【要旨】

東邦大学理学部生命圏環境科学科の実習にて、我々は「海ゴミペイントアート」という、新たなアートを考案し、青少年を対象とした海岸の環境教育のためのワークショップを実施した。海ゴミペイントアートとは、海岸に漂着した歯ブラシや櫛、布などの家庭ゴミや、釣り具や漁網などの海ゴミに絵の具をつけて筆の様に用いて、キャンバスに絵を描くアートである。海ゴミ問題の普及啓発活動の手段として用いられてきた海ゴミアートの多くは、海ゴミそのものを素材として製作されたオブジェが多かった。従来の海ゴミアートの形は、見映えや保管スペースの問題、また海ゴミに付着する有害物質の懸念など課題が多く考えられた。

残すことができる。また、海ゴミの種類によってその形状や質感が多様な表現を可能にし、海ゴミペイントアート体験者は海ゴミを有用な画材として捉え、海岸清掃活動に参加するモチベーションに繋がることが期待される。

【調査方法】

我々は、考案した海ゴミペイントアートによる海岸の環境教育活動の有効性を確認するため、東邦大学内の環境系学生に向けてワークショップを企画した。ワークショップの実施に際し、企画運営者の海岸の環境問題への理解を深めるため、事後調査も含めて令和7年10月から令和8年1月末にかけて計6回の学外フィールドワークを行った。

また本実習の課題提供者であるニチモウ株式会社、海洋環境で経済活動を行う三番瀬の漁業者へのヒアリングを行い、現場活動者の視点を重視して、企画設計を行った。

ワークショップは令和7年12月17日(水)15:00~16:30の90分間、東邦大学理学部V号棟5401教室で実施し、募集定員20名のうち10名(大学院生8名,学部生2名)が参加した。

プログラムの概要として、はじめに実習の趣旨とこれまで行ったフィールドワークの説明。次に千葉ポートパークかもめのクリーン隊の谷口優子氏に講師を依頼し、海岸の海ゴミ問題の現状や人体・生物多様性への有害性を説明する講演を行っていただき、その後企画運営者が事前のフィールドワークで収集・洗浄した海ゴミを用いてペイントアートの体験会を実施した。



写真1.海ゴミペイントアートを作成

そこで考案した海ゴミペイントアートは、筆として使用した海ゴミは処分し、ペイントアートとして残すことで、美しく省スペースな形で、体験を形に

ワークショップ終了後に参加者へアンケートを実施し、ワークショップ全体の満足度と講演・ペイントアート体験の感想、海ゴミと海ゴミ拾い活動への関心度を調査した。



写真2.完成した海ゴミペイントアート

【調査結果】

調査結果は、概ね好意的な感想が得られ、満足度は10人中10人が「とても満足」と回答した。海ゴミ問題の講演の感想は、ライターや注射器など、人体に有害で危険なゴミが海岸に落ちていることへの驚き、プラスチックが油や有害物質を吸着して移動する性質など、目に見えぬ問題への恐怖を感じたという声があった。ペイントアート体験の感想は、ゴミの形や素材の違いによって線や模様、作品の雰囲気が変わる点を楽しめたこと。形を活かして描くことや模様をうまく出すのが難しく感じたが、試行錯誤しながら取り組む楽しさを感じられたといった声があった。

今後の海ゴミ拾い活動に関する意識調査では、ワ

ークショップ後に海ゴミ拾い活動に”参加してみたい”と好意的に答えた割合が7割以上を占め、海ゴミ拾い活動の参加を促す啓発効果も期待された。

【考察】

ワークショップを実施して得られた結論として、参加した環境系の大学生からは高い満足度と普及啓発効果が得られたと考えた。反省点は、ワークショップの開催時期の設定や広告・宣伝の不備により、募集人数の半数しか集まらず、参加者構成も大学院生が大半を占めていたこと。絵の具やキャンバスなどの画材の予算や講師の依頼料の必要から、資金調達と低コスト化が必須であること。その課題に付随して、参加者に支給した画材や安全対策のための手袋などの消耗品が多く、結果として多くのゴミを生み出していることから、低コストに加えて省資源化・厳密な環境配慮の必要性を認識した。

さらなる普及啓発効果を望む改良点として、今回のワークショップは企画運営者が事前に収集した海ゴミを使用した。今後企画するワークショップでは参加者が海ゴミ拾いから行うプログラムを設定すること、また描くモチーフとして海岸に漂着した魚・甲殻類などの生き物や、地域の特産品などフィールドの生態系や文化と絡めたストーリーを加えることによって、より海岸の環境問題を身近に考えてもらうことが可能であると期待している。

【謝辞】

ニチモウ株式会社 環境開発チームリーダー

伊藤翔様 環境開発チーム 森田祥之様

三番瀬漁業協同組合 滝口瓢彪様

ちばポートパーク かもめのクリーン隊代表 谷口優子様

有限会社 西川塗装店 執行役員 高橋和弘様

市川緑の市民フォーラム 事務局長 佐野郷美様

新浜の話 98 ～たけのこ狩りと菖蒲くばり～

老朽化が進んで穴があちこちに空いた導流堤の改修工事を3年にわたって実施された千葉県の担当者、並木康雄さんは、東京農工大植物防疫学科のご出身。同大林学科卒の蓮尾（夫嘉彪も同大獣医学科卒）と同窓でした。そのこともあって、お休みの日などにも時々観察舎に顔を出してくださいました。ある日のこと、リュックいっぱい詰まった掘りたてのたけのこを届けてくださったものです。大喜びしていると、「僕にとってはたけのこはゴキブリと同じで、駆除対象なんです」

皆でびっくり仰天。並木さんのご実家は長生郡の山の中で、庄屋さんのお家柄。手入れが行き届かなくなると竹林が荒れて手のつけようもなくなるとのお話。そんな、もったいない、スタッフや有志といっしょにたけのこ狩りをやらせていただこう、という話になりました。

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

わが家の孫一家を含めて、朝7時(だったか?)に観察舎駐車場に集合。車4、5台に分乗して、いざ、たけのこ山へ。私はお留守番役でとうとう一度も行けずじまいだったのですが、多い時は総勢20名近くの一行が出かけました。2時間ほど現地でも働いて、観察舎の軽トラックの荷台1杯(平積みですけれど)のたけのこを積んで、お昼ごろには戻ってきます。観察舎の玄関前でたけのこ配り。当時は「1%支援事業」で「生きものマップ」の活動をやっていたので、たけのこには「1%支援事業で友の会を応援してください」のチラシを巻いて。掘りたてのたけのこのおいしかったこと。たけのこ狩りの遠足は、みごとに千葉の里山の春を満喫し、ちょっぴりだけ倒木や倒竹の片づけなどのお手伝いをして「里山管理実習」という名目で何年か続けました。

スロマン 作：アサキ



現実を知らない理想論者だと笑われそうですが、子供達にはこう思ってもらいたいです。(作者談)

慶応ボーイだった並木さんのお父上と、同窓の友の会会長、東良一さんも話がはずんだそうです。

このころは町田安男・岡田節子ご夫妻の活躍の全盛期。おふたりは超強力な助っ人として毎週末に来てくださいました。安男さんの爆発的な行動力と、節子さんのこまやかな気配りで、どれほど助けられたかわかりません。おふたりのフィールドである埼玉県吉川のあたりが急激に開発され、田んぼがどんどん埋め立てられている最中とのことで、救出作戦の意味もあり、カエルやタニシなどの水田の生きものをせっせと捕獲して持ち込まれていました。吉川は江戸川流域なので大きな分布攪乱には当たらないだろう、とのことで。背中を下にして泳ぐホウネンエビや、カブトエビなどの在来の水田の生きものを初めて見たのも町田さんのおかげ。湧き水がなく、若干の塩分がある保護区の淡水環境では、残念ながらこうした生きものたちはほとんど生きのびられませんでした。シュレーゲルアオガエルは一時定着し、オオアオイトトンボなどもこの時移入されたものかもしれません。

1995・1996年度に行われた「行徳内陸性湿地再整備事業」で、保護区域本土部分の3分の1近くが淡水湿地となったわけですが、造成された新浄化池にトラクター等が上るための斜路を作る時、土砂を掘った跡地を3つの池にしてもらいました。この池を舞台に、町田夫妻はメダカやタニシなど、在来の生きものを精力的に導入されました。「町田池」と名付けたこの池で、植えた菖蒲が着々と増えて、水面をふさがないように刈り取る作業を行う時、5月5日の端午の節句に合わせて、菖蒲とヨモギを束にして配られたのも町田夫妻です。切りたての菖蒲はとてもよい香りで、通る方々が喜んで持ち帰られました。鳥は少ない時期でしたが、菖蒲配りも何年か続いた楽しい行事でした。

町田さんが持ち込まれた足踏み脱穀機や唐箕などの昔の農具は、秋の「しんはま収穫祭（今では形を変えた「保護くらぶフェス）」で、参加された方の農作業体験に用いられ、好評だったものです。

2026年度 会費お振込みのお願い

下大和田谷津田の開発問題では多くの皆様が気にかけてくださり心よりお礼申し上げます。皆様には引き続き会員さんとして応援いただきたく、会費お振込みのお願いをいたします(下記参照)。季節柄くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

2026年4月1日 NPO法人 ちば環境情報センター代表 小西由希子

お振込は (1) または (2) ①, ②でお願いいたします。(1) 同封の振込用紙で振り込む (2) 千葉銀行 または ゆうちょ銀行の口座に振り込む ① 千葉銀行 普通預金 本店営業部 (店番号) 100 口座番号 3627678 特定非営利活動法人 ちば環境情報センター 代表小西由希子 ② ゆうちょ銀行 普通預金 店名〇五八 (ゼロゴハチ) 店番 058 記号 10560 番号 55564681 トクヒ) チバカンキョウジョウホウセンターなお、寄付される場合や複数年度の会費入金の際は、その旨を明記してください。

<会費> 正会員 5,000円、一般 2,000円、学生 1,200円、賛助 10,000円

【発送お手伝いのお願い】 ニュースレター2026年 5月号 (第345号) の発送を 5月 7日 (木) 10時から千葉市民活動支援センター (千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階) にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655) までご連絡ください。

..... あなたも入会しませんか

住所 〒 _____
 ふりがな _____
 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターは、リサイクルペーパーを使用しています。

編集後記： 祖父は父がまだ 20代で亡くなったため、私には祖父の記憶はない。3月末、従弟妹たちと糸魚川に祖父の故郷をたどる旅に出た。問い合わせを重ねたどり着いた菩提寺で、寄進者木札に高祖父「勇太郎」の名を見つけ感慨ひとしお。北前船も立ち寄ったという港の高台から望む海はどこまでも青く美しく、天保5年生まれの高祖父もこれを眺めていたのかと思いをはせた。 mud-skipper

☆第 242(1&2)回 小山町 YPP「苗代づくり」 3月27日(金) / 29日(日)

小学校田んぼと YPP の皆さんで米づくりをする田んぼに苗代を作りました。初日に泥を盛って苗床を作り、2 日に水に浸しておいた種もみを撒きました。泥に埋めた後、保温のために昨年のもみ殻から自作したくん炭で覆いました。さらに鳥などに食べられないようにネットをかけ、田植えが早い学校田んぼの苗代は保温シートをかぶせました。あれこれ手順の多い作業ですがたくさんの皆さんのおかげで早く終わったので、畦の補修の続きもしてすぐにでも田植えができそうな田んぼになりました。 参加者：のべ14名 報告：高山邦明

【谷津田・季節のたより】 2026年 3月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

3/8 ウグイスがさえずりをしていました。ニホンアカガエルの新しい卵塊が10個ありました。それでも少ない。
3/15 ウグイスのさえずり。ニホンアカガエルのオタマジヤクシがいました。まだ遊泳力弱いです。 3/20 シュレーゲルアオガエルの鳴き声、今季初確認。春を感じます。コジュケイ2羽以上鳴き交わし、とても賑やかでした。タチツボスマレ、ケマルバスミレ咲く。スマレ咲き始めました。セリ、フキ、ニワトコの若葉、タネツケバナ、スイバ等を摘み食しました。春の味わい美味しかったです。

<小山町> 報告 高山邦明

3/2 ウグイスのさえずりを聞く。 3/4 モズがペアで行動、モンシロチョウが飛んでいた。 3/5 タチツボスマレの花が1輪咲いていた、ナナホシテントウを見る。 3/6 エナガの群れが咲き終わった梅の枝で餌さがし、ツクシが顔を出す。 3/7 キブシが咲き始める。 3/10 ハルジオンやカラスノエンドウが咲き始める、ヤマドリが休耕田に出てきてホロ打ち、マヒワの群れが上空を飛び、イヌシデの花に止まって食事。 3/21 アオジがぐぜり鳴き、シュレーゲルアオガエル、アズマヒキガエルの声がした。 3/24 朝冷え込んで霜が降りる。メジロのペアがキブシの花の蜜を吸っていた、ウグイスカグラが開花、ヒキガエルが産卵。 3/25 林縁のコブシが開花。 3/27 ヒヨドリがキブシの蜜を吸う、ニョイスミレ、ムラサキケマンが開花。 3/29 もう終わったと思っていたニホンアカガエルの産卵があった、ヒキガエルが孵化。 3/30 ウワミズザクラのつぼみが出る。

【イベントのお知らせ】主 催：NPO法人 ちば環境情報センター

<下大和田谷津田> 連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

・森と水辺の手入れ

日 時：2026年 4月19日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：田おこし・田植えの準備や森の木の整備などを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・森の手入れ

日 時：2026年 4月26日(日) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：森の木の整備や下草刈りを行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・第316回 下大和田YPP「田おこし」

日 時：2026年 5月 2日(土) 9時45分～12時 雨天中止

内 容：田植え前の田おこしをします。谷津田運動会も予定しています。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、お椀、飲み物、敷物など。 参加費：無料

・第315回 観察会とゴミ拾い

日 時：2026年 5月 3日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内 容：緑深まる晩春の谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津や森を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100円

・第317回 下大和田YPP「緑米の田植え」

日 時：2026年 5月 9日(土) 9時45分～12時 (雨天の時は10日に実施)

内 容：3月28日に種を蒔いた緑米の田植えをします。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

<小山町谷津田>

▼第243(1&2)回 小山町 YPP「田植えの準備」

田植えに向けて畦ぬり(くろぬり)や草取り、代かきをします。

日 時：2026年 4月18日(土)、26日(日) いずれも9時～12時 ☆小雨決行

場 所：小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物：田んぼ用長靴・防水手袋・飲み物

☆どなたでもお気軽に参加いただけます。初参加も歓迎です！参加のご希望、お問い合わせは、ceic.ypp.oyama@gmail.comまでメールでご連絡下さい。

